

## 銃砲史研究 400 号刊行記念号の発行について (案)

昭和 43 年、銃砲史研究創刊号を発行して 56 年後の令和 6 年度において 400 号を発行するめどが立った。これを記念して特集号を組みたい。主とした内容は 3 部からなり、第 1 部が銃砲史研究の現状認識、第 2 部として現会員の動向を紹介し、それぞれの興味分野や会活動への要望等の場を設ける。第 3 部は自由投稿形式で銃砲史関係の論文を募集し掲載する。予定頁数として 120 頁前後を想定している。刊行予定は令和 7 年 5 月を目指す。原稿募集は 12 月から行ない、来年 3 月中旬を一応の原稿締め切りとし、4 月初め入稿、5 月下旬刊行としたい。

掲載内容予定 (編集からの希望で、表題は仮の題名で順次調整していく。項目原稿執筆は編集からの指名予定か紹介)。第 1 部については、過去 10~20 年の最新研究成果をもとに、銃砲史の視点での各分野の先進研究及び現状認識について概説としてまとめる。頁数は目安であり、多少の増減を見込む。第 2 部では、令和 6 年度会員動向を把握するもので、会員数約 100 名が専門とするもの、興味ある分野についての情報を共有し会員及び会として共通認識を確かめていく。第 3 部は会員が温めていた論文等を投稿する場とする。第 1 部の内容は編集が想定したものを示している。随時修正し内容を確定していきたい。

### (第 1 部) 古式銃砲等の研究現状

1 頁 40 字×40 行の 1600 文字 2 頁当たり写真あるいは図 1 枚程度を含む。

1. 会長あいさつ文 (松丸喜一郎) 1 頁
2. 銃砲史研究の企図と将来像 (宇田川武久) 2 頁~4 頁
3. 江戸の銃砲—火縄銃研究の現状— (峯田元治) 4 頁
4. 幕末維新期の鉄砲—洋式銃研究の現状— (小西雅徳) 4 頁
5. 江戸明治期の大砲研究の現状 (中江秀雄) 4 頁
6. 江戸時代の火薬研究の現状 (野沢直美) 2 頁~4 頁
7. 明治近代以降の火薬研究の現状 (栗原洋一) 4 頁
8. 西南戦争研究の現状 (高橋信武) 4 頁
9. 博物館と銃砲展示の動向—企画展活動を通じて— (細縦雄貴・小西雅徳) 4 頁
10. 銃砲刀剣類登録審査と古式銃扱いの現状 (小西雅徳) 4 頁

### (第 2 部) 会員動向

会員動向 (会員紹介) 一人半頁程度の定型化した様式で記載。100 名の場合、総頁数は 50 頁を想定。全体文字数 500 字前後、写真 1 枚掲載可能とする。

- ① 氏名
- ② 住所 (都道府県市町村)
- ③ 入会の目的と研究とする分野
- ④ 会活動への希望及び自身の研究状況について

### (第 3 部) 論文集

寄稿論文・報告 数編予定 (自由投稿 1 編 10 頁前後)

(参考)

(第2部) 会員動向の内容構成 イメージ

氏名 小西 雅徳	住所 千葉県成田市
入会の目的と研究とする分野	
平成14年頃、東京都板橋区で新たに鉄砲隊を立ち上げる際に故島津兼治氏、峯田元治氏よりアドバイスをいただくために銃砲史学会に加入し、同時に古式銃の世界にも飛び込んだ。幕末西洋兵学について取り組んでいる。	
会活動への希望及び自身の研究状況について	
板橋区高島平地名発祥の人物、幕末の西洋流砲術家高島秋帆の資料収集と研究する過程で、銃砲史学会への加入を勧められ、それから古式銃砲の世界に魅力を感じた。会の古参ですすでに亡くなられた安斎實、所壮吉、赤羽通重氏らから史資料を借りたのが良い思い出。基本的には幕末明治初期の西洋砲術に興味があるが、同時に火縄銃関係の古典文献を入手して日本の古式銃砲の歴史的な流れを俯瞰していきたいと考えている。残念ながら刀剣類に対して、火縄銃や洋式銃に対する認識が世間的に見てまだまだ低い状況であり、会活動を通じて普及活動に努めていきたい。特に博物館に勤務していた経緯から、各博物館における学芸員加入や古式銃砲への認知普及に取り組みたい。	

「会活動への希望及び自身の研究状況について」の部分で、以下のような写真を添付することも可能です。

会活動への希望及び自身の研究状況について	
板橋区高島平地名発祥の人物、幕末の西洋流砲術家高島秋帆の資料収集と研究する過程で、銃砲史学会への加入を勧められ、それから古式銃砲の世界に魅力を感じた。会の古参ですすでに亡くなられた安斎實、所壮吉、赤羽通重氏らから史資料を借りたのが良い思い出。基本的には幕末明治初期の西洋砲術に興味があるが、火縄銃関係の古典文献を入手して日本の古式銃砲の歴史的な流れを俯瞰していきたいと考えている。残念ながら刀剣類に対して、火縄銃や洋式銃に対する認識が世間的に見てま・・・・・	

■フランスのル・フォショウ拳銃について研究しています。このような鉄砲の国内における情報提供をお願いします。

写真掲載は、自身の活動状況を写したもの（鉄砲演武、研究会発表）や興味ある古式銃及び文書資料の核心部分を写したものでコレクションの掲示はできません。研究素材としての部分アップとその重要性を指摘するものは大丈夫です。個人所持の鉄砲自慢は対象外となります。但し類例提示は認めます。個人のポートレイト（肖像画）も対象外となります。不明な点をご相談ください。